

全国の日雇い下層労働者団結せよ

5・28 → **6・27**

全国日雇労働組合協議会
創立大会案内

1982年6月27日

10:00～

葛飾区民会館にて

名称 全国日雇労働組合協議会創立大会

日時 六月二十七日(日曜日) 午前10時より

場所 葛飾区民会館(〒六九三・二二二〇)

主催 全国日雇労働組合創立大会準備委員会

次第 ①全国寄せ場交流会経過報告

②運動方針

③内規

④機関選出

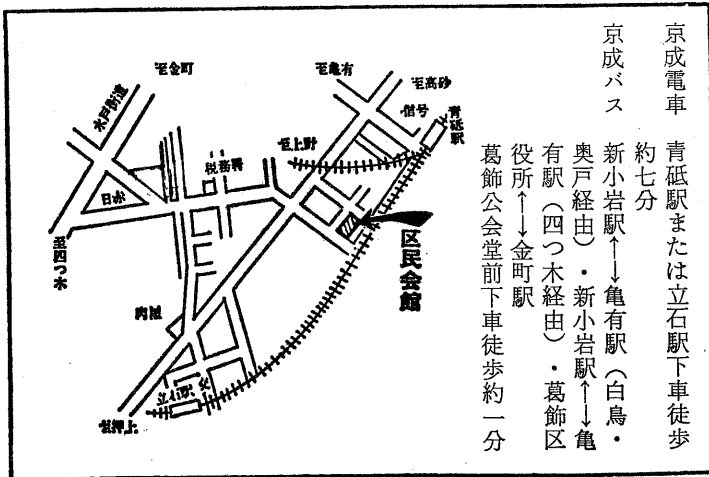
⑤宣言採択

II部 連帯挨拶

各界の闘う組織の代表多数参加の予定

葛飾区民会館案内図

東京都葛飾区立石6-34-5



できれば圧倒的カンパを創立大会に集中して下さい。

全国日雇労働組合協議会

創立大会案内

もくじ

1. 6・27 創立大会招請状	2
2. 5・25 結成宣言集会	
集会報告	4
宣言集会基調(抄)	7
集会宣言	
『社会タイムズ』記事	
3. 山統労のデマ・パンフに対する全国交流会の声明	13

招 請 状

6・27創立大会

すべての闘う労働者、農民のみならず、被差別部落民、障害者、在日朝鮮人、琉球人、アイヌの闘う兄弟姉妹のみならず、われわれ釜ヶ崎日雇労働組合・争議団（大阪）、笹島日雇労働組合（名古屋）、寿日雇労働者組合（横浜）、山谷争議団（東京）は、「全国寄せ場交流会」運動の成果の上に、きたる6月27日（日）午前10時より、東京・葛飾区民会館で「全国日雇労働組合協議会」の創立大会を開催します。

すべての闘う仲間、創立大会に結集され、日本帝国主義と対決する布陣を打固めるべく、共同の意志を築きあげていくことを訴えます。

全国日雇労働組合協議会（以下「日雇全協」）は、10年間の血の滲む寄せ場労働運動の総括を共有し、「帝国主義に対決する階級的労働運動の下層からの推進翼」として、11波にわたる全国統一闘争をくりひろげてきた実践的成果の上に結成されます。

戦争と革命の80年代に、日本帝国主義は我々を朝鮮をはじめとする侵略戦争と産業報国会の尖兵に動員せんと、政治支配を整え排外主義攻撃を強めています。

日雇全協は、よせ場に頭を垂れ死攻撃や、他方での治安弾圧強化・保安処分先の先取り攻撃として襲

同志・友人に不当弾圧を加えてきています。しかし、我々は「弾圧を肥しに鉄鎖を武器に」闘い続けます。なぜなら、そうすることによって始めて、敵の目論見は粉碎することができるからです。

まさに、5・28日雇全協結成宣言集会の一三〇〇人を越える仲間の結集による大成功は、こうして闘いとられたのです。

日雇全協は、労働者階級・人民を賃金奴隷に繋ぎとめ、他民族抑圧に動員せんとする日本帝国主義と対決し、国際主義の旗印を鮮明にして日雇、下層労働者の自己解放を闘いとる全国単一の基本組織の建設を目指して奮闘します。

一九八二年六月

かかる帝国主義に対して、自らの置かれた位置が、この支配との真正面切った対決抜きには一粒の改良すら闘いとれないという、我々の「特殊性」を大切にしなければならぬと考えています。そうであるからこそ、我が階級の任務を階級的労働運動の強固な一翼として打ち鍛えなければなりません。すなわち、労働運動を産業報国会に変質させんとしている独占資本、労働代官・貴族の侵略戦争の野望に鉄槌を下す歴史的任務を自らに課すものです。

日雇全協は、よせ場を真に闘いの出撃拠点とし、全国の寄せ場と飯場、現場を貫く運動の陣型を打ち固めていきます。それは当面、敵のアブレ（失業）―野垂れ死攻撃、争議封じ込め、寄せ場解体攻撃に対して、全国いたるところで仲間の怒りを大胆に解き放っていくものでなければなりません。

寄せ場労働者の怒りは、あの9年振りの4・25山谷暴動にみられるように、すでに敵の分断、封じ込めを喰い破り、本源的な敵との対決へと方向を明確にしつつあります。情勢は、狭いサークル根性を捨て、「支配への集団的反抗」のエネルギーを、全国規模の具体的闘いに編みあげていくことを求めています。この任務についた日雇全協に対し、権力はすでに20人もの

帝国主義の暴虐を撃たんとするすべての仲間たち！

共に、帝国主義と対決する階級的布陣を打ち固めようではありませんか！

☆万国の労働者・被抑圧民族団結せよ！

☆全国の日雇労働者団結せよ！ 全国日雇労働組合協議会に結集せよ！

☆帝国主義と対決する階級的労働運動を共に築かんとする仲間たち！ 全国日雇労働組合協議会創立大会に結集せよ！

全国日雇労働組合協議会創立大会準備委員会

釜日労働争議団 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23

釜ヶ崎解放会館2階 ☎06-632-4273

笹島日雇労働組合 名古屋市中区牧野町9-9 ☎052-451-4176

寿日雇労働者組合 横浜市中区寿町3-6-9 ☎045-662-5638

山谷争議団 東京都台東区日本堤2-28-7 池尾荘1号

☎03-872-7081

5・28 鈴木組闘争勝利、釜共闘・現闘委結成十周年 全国日雇労働組合協議会結成宣言集会報告

A 集会前段の闘い

五月二十七日夕方五・二八集会の情宣活動を行ない、銀座通りで多くの労働者が宣伝カーをとりまき、宣伝カーが動けなくなる状況になるや、ポリ公どもは「早く車を動かせ」などと言いがかりをつけ、マイクのコードを引きちぎったり、情宣活動をする我々になぐりかかったりの弾圧を加えてきた。弾圧は一層結集する労働者の数を増やす結果となり、車道いっぱい並んで立ちふさがるポリ公を労働者の隊列がジリジリと西成署近くまで押しやった。

結集している労働者は千五百名を超える勢いだ。その時点で機動隊がタテをもった完全武装の姿で登場し、警棒によるドウ喝の下に逆に労働者の隊列を押し返し銀座通りに阻止線をはりつめた。

B 五・二八集会

した大阪府警―西成署は、逆にいえば日雇全協のもつ重みと釜ヶ崎労働者の戦闘性を見抜き、それに恐怖する姿をさらけ出したと言えよう。

開会宣言の後、日雇労働者の解放闘争の途上倒れて行った五名の同志の紹介と黙禱が行なわれ、彼らの怨念、遺志を引きつぎ闘い抜く決意が確認された。

その五名とは、

「あいりん」センター爆破事件でデッチ上げ指名手配され、潜行中沖繩嘉手納基地前で「皇太子来沖阻止」朝鮮への反革命侵略戦争出撃基地粉碎」を叫びつつ焼身決起した船本洲治同志、

会社のミスにより「労災死」という形で資本により虐殺された釜共闘メンバーの山本孝同志、

あいりんセンター爆破事件でデッチ上げられ、少年時に逮捕され、釈放後「自死」虐殺された並木英夫同志、

大阪拘置所当局の精神「障害」者差別に基づく外界からの隔離、医療接見すらの禁止、不眠断食で衰弱した体への、囁託医臼井による鎮静剤の乱射により虐殺された鈴木国男同志（彼の虐殺は釜共闘の精神「障害」者差別についての認識の限界をも浮きばりにした）

しかし、その間、労働者大衆は、ポリ公の、労働者五名をしょっぴく（うち一名を道交法違反、公妨容疑で逮捕）、ナグルケルの暴行を加える。街宣車を道交法違反の押収物件として奪い去る（五・二八集会当日の宣伝活動への予防弾圧だ）などの弾圧―暴挙にもかかわらず、銀座通り一帯を解放区と化し、ポリ公との対峙戦を貫徹、ピンやカンなど近くにあるありとあらゆるものをポリ公に投げるなど果敢に闘い抜き、翌日の結成宣言集会へ向けての前哨戦を断固として戦い取ったのだ。

五月二十八日当日朝はセンターで全国寄せ場の集会をやり抜き、夕方は前日同様寄せ場内ねり歩き情宣を貫徹した。これに対してポリ公は又しても二つのマイクを奪い去る暴挙を働いた。

五月二十七日から二十八台のカマボコを待機させて五・二八集会への戒厳令的弾圧包囲網体制を築き無茶苦茶な弾圧を

日帝の手先―ヤクザに襲撃され虐殺された徳野稔同志である。

次に五・二八鈴木組闘争の報告が行なわれた。

この闘いは十年前に暴力人夫出しの頭目鈴木組に対して釜ヶ崎労働者が決起して実力で粉碎し、寄せ場での力関係を逆転させ、釜共闘結成の契機となった闘いであった。

鈴木組闘争はその后五日間の暴動として燃え上り、全港湾西成分会―社民潮流と分岐した釜共闘結成を刻印したのだ。

集会基調報告が行なわれ、その後各寄せ場のアピールが行なわれた。

山谷争議団からは監獄法改悪阻止ハンスト闘争の渦中、アブレ地獄からふきあげた四・二五暴動と警察の弾圧、寄せ場―半タコ―青カン―ケタオチ病院、精神病院、監獄―青カン―半タコという「保安処分的環流」の把握とそこからのケタオチ半タコ戦の組織化―全国闘争の提起及び「わしらは全国どこでも働らき、全国どこでも闘う」という訴えがなされた。

又、釜日労働争議団からは日雇全協結成こそ、寄せ場闘争が帝国主義と対決する全国闘争の時代の幕明けであることが訴えられた。そして六〇年代の嵐の様な寄せ場暴動の闘い、七〇年代前半期の釜共闘―現闘委による暴力手配師どもとの奪権闘争の闘い、七〇年代後半期の冬の時代のねばり強い防衛戦の闘い、これらの闘いの歴史的成果として、激動の八〇年代・全国闘争の布陣が獲得されたことが述べられた。

次に、七八年暴力飯場中島組に対する火炎ビン闘争で実刑攻撃を受けている山田実・中尾春男両同志からのアピール。七九年6・9マンモスポリ公セン滅を闘い、無期の重刑攻撃を受けている磯江洋一同志からのアピールは、監獄法改悪粉砕闘争のハンストに対する報復懲罰のために届かず、仲間からの6・9闘争の意義のアピールに変えられた。そして、四・二五山谷暴動で令状攻撃を受け潜行中のA同志からのアピールが力強く読み上げられ、獄中アピールはしめくくられた。その後、全金西成地域合同労組支部有志、名古屋日雇労働者支援会議、四・二五山谷暴動反弾圧共闘会議、関東及び関西「南朝鮮民族解放戦線事件」被弾圧者を救援する会の連帯アピールが行なわれた。

アピール団体の他にアコム労組、全大阪合同労組、泉州沖に空港を作らせない住民連絡会議、関西監獄法阻止実行委員会、広島「南朝鮮民族解放戦線事件」被弾圧者を救援する会、スタンダード石油労組中京分会連、全石油ゼネラル労組、獄中者組合、兵庫県福祉労組、兵庫印刷労組、京大、関西学院大学の学生戦線などが本集会に結集したことの中に、我々は他戦線の我々の闘いへの注目と熱い共感を感じると共に日雇全協に課せられた重大な責務を痛感するのである。

八一―八二年山谷越冬闘争の記録映画上映を行ない、樽酒を割っての祝盃をあげ集会を終えた。

集会場である三角公園は機動隊包囲の厳戒体制の下、約千

三百名の労働者でうめつくされ、前日からの闘いの高揚の中で「これから全国で団結して闘いぬくのだ」という熱気が満ち、労働者は長時間の集会に最後まで耳を傾け、集会は圧倒的に成功したのだ。

これは不況の犠牲を真先に日雇労働者に転嫁し「行旅病死か半タコか」の二者択一を迫る資本の攻撃を逆手にとってアブレ地獄に対する闘いを作り、寄せ場―飯場―現場を貫ぬく全国闘争網の形成をなしきることにより階級的労働運動の拠点として寄せ場を打ち固めていくという日雇全協の結成の必然性とその理念が労働者に全く納得ゆくものとして提示されたという事に他ならない。

五・二八集会后のポリ公との攻防―投石戦、更には六月一日の二〇〇名による、シノギをかくまったドヤの追求と釜ヶ崎労働者の戦闘意欲の健在を示す胎動は日雇全協の闘う未来の一端を暗示しているといえよう。

基調報告(抄)

はじめに

我々は、本日、鈴木組闘争勝利―釜共闘・現闘委結成10周年の記念すべき日に、全国日雇労働組合協議会(日雇全協)結成宣言集会を開催している。

釜共闘・現闘委解体以降の分裂と混迷の「冬の時代」に終止符を打ち、路線的結合をめざした全国4大寄せ場(東京・山谷、横浜・寿町、名古屋・笹島、大阪・釜ヶ崎)の闘う仲間が結束し、81年9月、全国寄せ場交流会が発案した。

この全国寄せ場交流会は、①全国統合を勝ち取らんとする強固な意志を持っていること、②寄せ場闘争の10年間の総括を共有すること、③同志的に批判し、討論すること、を共通確認し、特に、10年間総括を、否定面の主体的切開を軸とする視点を自らに課し、進められてきた。

又、単に総括論議一般に終止するのではなく、全国寄せ場交流会として全国闘争の実践を積み重ね、闘争結合の中で、日雇全協結成宣言集会へと編み上げてきた。

この10年間、我々は何名ものかけがえない同志を権力の弾圧等により虐殺され、失なってきた。そして、現場での死亡事故、飯場、ドヤでの火事により殺されたもの、行旅病死という名の野たれ死を強制されてきた仲間は数知れない。我々は、こうした多くの仲間の状況を脊負い続け、彼らの遺志を受け継ぎ、しかばねを乗り越えて闘っていく。

日雇全協結成はこの決意の第一歩であり、全国日雇労働者の闘いの利益を代表する単一組織化をめざし、我々は突き進む。

一、全国結合の歴史

72年5月28日、現場からトンコした労働者をリンチした暴

力団人夫出し鈴木組糾弾に対し、7、8名のヤクザが手に手に木刀、ツルハシの柄を持って朝のセンターに殴り込んできた。これに対し、釜ヶ崎労働者2千名が決起して鈴木組の親父を実力糾弾し、土下座させて謝罪させ、更に5日間の暴動を闘いぬいた。鈴木組は当時の人夫出し組織親睦会の初代会長であり、センター支配を牛耳っていた頭目の一人であった。この鈴木組闘争を契機として釜共闘が結成され、寄せ場の暴力支配を覆す闘いが胎動したのである。

これと連動し、山谷においては現闘委が結成され、寄せ場支配の奪権闘争として闘いが開始された。

この年の12月の現闘委に対する集中弾圧―解体攻撃を釜からの60名の仲間による山谷への登場、反撃の陣型構築を闘い取った歴史と精神を我々は断固として継承していく。

ヤクザの暴力支配と闘い、寄せ場での力関係の逆転の成果をふまえ、その後、全国寄せ場の調査、闘いを指向する全国工作隊の組織化がめざされた。北九州の労働下宿の調査、高田馬場での新井技研闘争はその端緒であった。

しかしながら、現場⇄朝のセンターを切り結ぶ現場闘争と暴動による労働者の大衆的実力闘争に恐怖した警察権力―人夫出し、手配師連合による釜共闘、現闘委包囲・圧殺攻撃、一方における石油ショック以後のアブレ支配に対し、釜共闘、現闘委は有効な戦術をみい出せないまま解体を余儀なくされ、全国工作隊も又、頓座せざるを得なかった。

致」を求める気運を高めていった。

山村組闘争は、半タコ飯場の暴力支配を仲間の実力で粉碎する闘いだった。この闘いの積極面を防衛し、敵の話し合い路線⇄争議封じ込めとは対決できなかった不十分さを克服する共同の作業は、自らの主体的切開を恐れない者同士を、反彈圧共闘や課題別共闘機関の枠組みを超えて、10年間の寄せ場労働運動の総括内容の一致と、その実践的検証へと歩を進ませていった。

81年9月に「寄せ場労働運動の路線的・一致にもとづく全国組織統合」をめざして結成された「全国寄せ場交流会」こそ、その主体だった。

全国交流会は9月第一回交流会から7回の全体会議と10回をこえる運営会議を通じて、10年間の総括を運動、路線、組織の各方面から行ないその内容で一致した。のみならず、この総括内容を具体的な全国闘争の中で実践的に検証して、方針に編みあげていく作業を決定的に重視してきた。

「全国交流会」の全国闘争は、10・11、81・3・28の三里塚現地闘争に「労農団結」の質を問い、11・23/24八起建設（笹島）現地闘争、81・1・6/8八起―エタニット建設、81―82越冬闘争、82春季攻勢で自らの持ち場の闘いを把え返しながら全国機関の路線を模索してきた。

同時に、敵の寄せ場支配の要をなす刑法―保安処分闘争にも、決起し、寄せ場解放の戦士・鈴木国男（デカパン）を大

釜共闘、現闘委解体以後結成され、寄せ場の拠点化を維持してきた釜日労、山日労、寿日労によって77年4月、全国日雇共闘が結成された。全国日雇共闘は、三里塚闘争を契機とし、労働省闘争等を闘う中で全国統合の地歩を踏み出した。我々は、この様な歴史性を総括し、前進させるものとして全国寄せ場交流会運動へと向ったのである。

二、全国交流会の全国闘争

「冬の時代―分裂と混迷の70年代後半」に終止符を打たんとする予兆は、80年8月1日に始まった。

「笹島労働者有志の会（後の笹日労）」の情宣活動に対し、笹島に利権を求めて進出してきた山口組系加茂田組・中勢連合が暴力的敵対をしてきたが、全国寄せ場の闘う組織は総結集、実力でこれを撃退し、笹島を寄せ場労働者の砦として守り抜いた闘いが、それだ。

79年、6・9磯江氏単身決起、6・26釜ヶ崎爆取りデッチあげ、10・3爆取デッチあげ（山谷、釜ヶ崎27カ所ガサ入れ）と打ち続く弾圧は、冬の時代の根本的な問い直しを求めた。これを一歩、実践的に、かつ寄せ場労働運動の路線的総括へと結びつけたこの全国闘争は、やがて同年10月、山谷の半タコ・山村組に対する組織絶滅型の大弾圧と山村組闘争の破産の根拠を共有する作業の中で、「寄せ場労働運動の路線的



5/28 集会 あり

阪拘留所内で虐殺に追い込んでいった(76・2・16)思想的根拠を問い返し、無念の涙の中に死んでいった無名の仲間たちとスクラムを組むことの決定的重さをつかみとった。12・5

名古屋パネル集会粉砕闘争完全勝利を主体的に担い、デカパン虐殺糾弾闘争にも、他戦線の闘う仲間と全国統一闘争を闘いとったのだ。だからこそ、刑法改悪―保安処分新設の突破口である監獄法―警察留置施設法に対しても、獄中者―山谷拠点ハンスト闘争と結んで全国統一闘争を展開しえたのだ。

さらに、雪崩うつ労働貴族をテコとする労働戦線の産業報国会化に対しては、これまで我々寄せ場労働者を切り捨て、踏みにじってきた民同労働運動を指弾するだけでなく、また敵の「寄せ場封じ込め」に対決しきれなかった自らの限界点を克服するために12・13・14の統一準備会粉砕―富塚糾弾を「帝国主義と対決する階級的労働運動の一部隊」として、断乎として最先頭で闘い、労働情報第6回全国労働者討論集会にも全国隊列で結集していったのだ。

こうして、4・25山谷暴動に象徴的に示された仲間の闘う共感を各地で組織しつつ、11波にわたる全国闘争を全力を挙げてとりくみ、我々は、5・28結成宣言集会を一三〇〇人の隊列で貫徹し、ここに創立大会を戦取したのである。

個別のよせ場に閉じこもっているなら、決定的に敵の攻撃に立遅れてしまうだろう。

全国の寄せ場―飯場―現場の総体を我々の運動の基盤とする全国的な布陣を構築しない限り、勝利を握りしめることはできない。

全国の寄せ場や飯場を流動する我々は、全国のどこからでも日雇全協の隊列で闘いを開始するのだ。それにとどまらず、かつて釜共闘―現闘時代に完遂されなかった全国工作隊を要に、この全国の闘う布陣を打固めよう。これが第一の任務だ。次に、我々を侵略体制構築の国策事業に動員する独占資本に対して、内部から反乱を組織しよう。奴らが戦略的に我々をこうした事業に動員するのなら、この領域で帝国主義と対決する闘う体制を築きあげてやろう。

こうして、民間労働運動が切り捨て、踏みにじってきた同じ下層の仲間たちとの共同闘争の隊列を創り出していこう。同じく独占資本が牛耳っている重層的な下請―系列支配の基底で酷使され、使い捨てられる下層の仲間たち、下請、社外工、臨時工、パート、出稼ぎ労働者、更には数百万に及ぶ失業労働者―この下層労働者総体の階級的団結を、日雇全協を基盤に作り出していかなければならない。

我々はこうした自らの領域での闘いを基礎に、労働貴族をテコに急ピッチで進行している労戦の産報化を粉砕していかなければならない。

三、日雇全協の任務

帝国主義の体制的危機が世界的規模で始まり、ヨーロッパやアメリカでは、すでに失業労働者は2千万人をこえた。誰の目にも、奴ら帝国主義者共が危機に叩き込まれていることは明らかだ。

危機に喘ぐ日本帝国主義は、今唯一の延命策として再び朝鮮―アジアへの侵略戦争に乗り出そうとしている。「極東有事体制」のため米―日―韓反革命体制の再編、刑法改悪―保安処分新設攻撃、労戦の産報化は、そのあらわれに他ならない。では、寄せ場の現状はどうか!!

独占資本は、よせ場労働者に新たな労働力再編攻撃をかけている。人夫出し・飯場などの労働者供給制度をフルに利用して、一方で全国に散在する飯場に労働力を大量に囲い込みあらゆる現場に流動させ、他方では都市部の寄せ場を縮小・分散・疲弊化させている。

さらに、我々下層労働者に第一次石油恐慌を上まわるアブレ攻撃を加え、野垂れ死を強制しながら、もう一方では原発現場、三里塚空港、新関西国際空港など、侵略体制づくりに直接結びつく反人民的国策事業に下層労働者を大動員せんとしている。

そのような攻撃に対し、寄せ場の解放運動が、旧来の様に

想い起こしても見よ、労働運動の上層に巢喰い、我々と兄弟姉妹をサンザンに踏みつけにしてきたダラ幹共は、今、労働者を侵略と戦争に引き込もうとしている。労戦の産報化を粉砕し、帝国主義と対決する階級的労働運動の布陣を、我がその下層からの推進翼として創出しなければならない。

すでに、日本帝国主義は、歴史的な危機の時代を迎えている。三里塚、狭山、赤堀闘争をはじめ、全人民的政治闘争の領域に日雇全協が登場し、その最前列で闘える布陣がぜひとも必要だ。

外に向かつては戦争、内には一層の反動、差別―分断、排外主義の攻撃が露骨に進行している現在、我々は自らを全人民の先進闘士として打ち鍛え、「障害者」、「病者」、「被差別部落民、沖縄人、アイヌ、在日朝鮮人労働者との共闘・連帯・階級的団結を獲得しなければ、真に帝国主義とは対決できないのだ。

仲間たち

帝国主義諸列強は、南朝鮮人民の光州蜂起、エルサルバドル―中南米人民を先頭とする反帝国主義の闘いの前進によって、さらに危機を深めている。

この80年代、30年代の敗北を再びくり返し、朝鮮―アジア人民に対して銃口を向けてはならない。

日本帝国主義の他民族支配の血に染められた歴史は、我々日本の労働者階級に対し侵略戦争にむけた排外主義攻撃と断

固として闘う国際主義の赤旗を高く掲げることを求めている。この具体的実践こそ、沖繩人労働者、在日朝鮮人労働者との階級的団結をうちたててることではないだろうか。我々日雇全協こそ、同じ下層に組みしかれている彼らと、国際主義的団結を先頭になって築きあげねばならない。

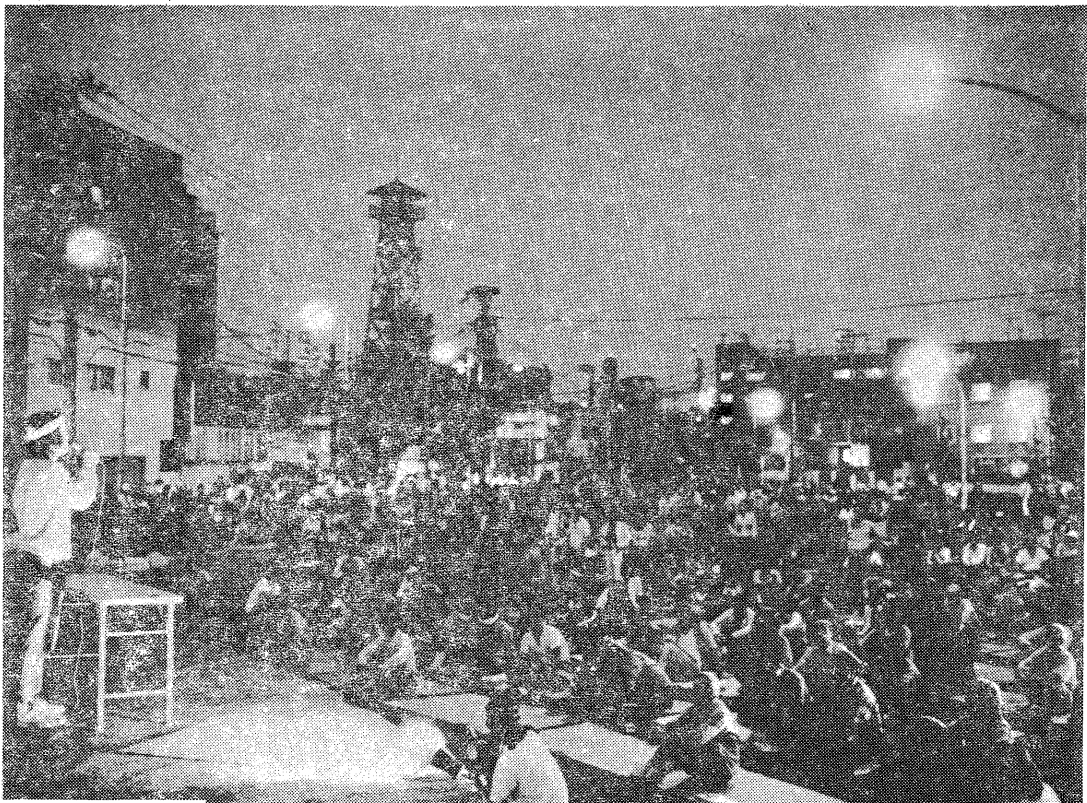
仲間たち!!

日雇全協は結成された。

寄せ場労働者を始めとする全国の日雇労働者兄弟たちノ
帝国主義と対決する階級的布陣につこうではないか!!

全国の日雇労働者 団結せよ!!

5・28日雇全協結成宣言集会万歳!!



5/28 三角公園をめぐりつくる1300労働者

声明

人の足を踏みつけたり握手を求めるといふ

山統労のセクト主義・分裂主義を糾す!

全国寄せ場交流会

我々は、5・28全国日雇労働組合結成宣言集会にあわせて出された「やられたらやりかえせNo.4」が、事実の歪曲、デマ、誹謗中傷——それがすぐにバレるものであっても——に満ちていることに強い憤りを感じている。

我々は全国に分散する寄せ場労働運動を統合せんと、山日労と6・9闘争の会獄中メンバーの山村組闘争総括を足がかりに、75年以降の「冬の時代」の克服を共通の目標に寄せ場労働運動10年間の総括とその実践的共有をはかってきた。

これに対して山統労はといえば、長い間沈黙を続け、半年も経ってから書記長町田文責で「総括」が出された。しかし、その内容たるや、具体的事実から出発せず、否定面の主体的切開に反対し、プロ革派の路線を観念的に羅列するというものであり、寄せ場では殆んどの支持がえられなかったのである。

一、デマにもとづく個人攻撃で
組織の分裂を画する山統労

「…宗村氏は三者共闘を分裂させ…山村組追撃戦を否定する山谷争議団を作り…山統労排除の陰謀を進めていった」——なんとという貪しい「批判」なのか、だとするならば、何故彼らはこの「陰謀組織」に再三再四入ろうとしたのか。

山谷争議団は、半タコ・ケタオチ飯場支配との闘争を不況期の戦術環として把え、山村組闘争敗北を実践的に克服したケタオチ岩淵組闘争の勝利とその総括をもって結成されたものである。そして、この闘いに「半タコ闘争を主要な戦術環とするのは小ブル急進主義」(町田発言)と反対したのは山統労であった。

総括と方針の一致に基いて、「個別課題の共闘機関」を再編し「基本組織」を闘いとることが、どうして「分裂策動」や

「共闘の押しつけ」になるといふのか。いや、三者共闘こそ、個別組織の利害を優先させるカンパニア共闘として、時代の桎梏物となっていたのだ。

山谷争議団は、宗村氏に限らず、誰もが山統労の見解や過去の実践に批判があったからこそ、まず独自に団結を開始したのである。

二、山統労の主体的総括の欠落について

彼らは「宗村氏批判」の一、二項で、山日労と6・9闘争の会に対する原則的路線批判を放棄し、それをゴシップ的中傷に置きかえた。このような次元の話なら、我々は彼らを「攻撃」する材料はいくらでも持っている。

彼らによれば、山統労だけは誤りを犯さず闘ってきたというのだ。闘いの低迷の根拠を客観的条件にのみ求め、自らのカンパニア的運動傾向を「持久的対峙の布陣だ」とゴマかしている。この自分に向きあう不真面目さこそ、我々と彼らの団結を阻害したのだ。

また「…全国寄せ場の組織の再編統合を呼びかけた」と言うが、そんな呼びかけは全くなく、釜ヶ崎の仲間たちこそが、いつも具体的に呼びかけてきたのではなかったか。こんな「マエミソ」に、我々は開いた口がふさがらない。

連の昂揚を引き出してきたのである。

交流会は、個別課題の共闘機関ではなく、運動路線の一致に基いた「組織統合」を当初から目指してきた。それ故、山村組総括において方針の全く違った結論を導き出す彼らを、統合の対象としえなかったのである。しかし、我々はそれでも、課題別に共闘し、見解の一致を闘いとらんと、ねばり強く働きかけてきた。

こうした我々の態度に彼らは「控訴審を闘わない山谷争議団」なるウソのレッテルを貼り、ツバをはきかけている。ついでに言えば彼らは、累犯加重と別件併合によって保釈却下・実刑（一年四月）となったM君の「実刑をまぬがりたい」という気持を困い込み、一番にはもっとも不真面目だったにも拘らず、アリバイ証明をやるうとしていた。しかし、こんな政治はすぐボロを出す。事実、M君の裏切りで、控訴審はそのカンパニアさえうてないという大破産に陥っているのである。

四、全国寄せ場統合に対する山統労の敵対

激動の80年代、日本帝国主義の再度の侵略戦争への道を許さず、労戦の産報化を押しすすめる同盟・JCI—民同どもの日和見主義、社会排外主義と闘い、階級的労働運動の布陣を

三、山村組闘争とその総括について

我々は彼らの「山谷争議団が山村組闘争の結着に反対」したかのデマゴギーを許さない。その結着は、山谷争議団と彼らとの81—82越冬闘争の中で闘いとられたことを、よもや忘れた訳ではあるまい。

我々は山村組闘争を、不況期にはびこる半タコケタオチ飯場支配（労務供給体制の再編強化）との闘いとして充分に把握できず、敵の性格を冷静に分析できないまま、芒洋とした恐怖心から不必要な戦術を用い、組織中枢への弾圧を許し、以降の闘いに大衆との結合の回路を産み出せないまま、カンパニア化してしまった。敵の暴力支配を、仲間の実力で覆す闘いにとっては、憤激に拝跪するのではなく、仲間との団結を鍛えつつ、不況期の支配体系に対する計画的布陣を敷くことが問われていたのである。

これら総括を共有し、実践的な検証を積み重ねてきたからこそ、山谷争議団は、越冬闘争から春季攻勢の中で、ケタオチ—半タコ飯場に対する大衆的押しかけ団交—争議を全面化し、これを土台に3・15五百人によるケタオチ手配師追及闘争に完全勝利し、4・1百五〇人で不当逮捕された仲間を実力で奪い返し、4・25の千人の暴動決起、5・26七〇人の暴力手配師実力追及、三百人のマンモス交番糾弾といった、一

構築していくことが、全ての労働戦線に今、問われている。

81年9月結成された全国交流会は、帝国主義に対決する階級的労働運動の布陣を、全国寄せ場の統合された隊列で、下層からの推進翼として築きあげていくために、釜共闘—現闘委解体以降の全国寄せ場の闘いの、分裂と分散を特徴とする冬の時代をキッパリと清算し、全国寄せ場の路線的—組織的統合を断固として獲得することを目指し、闘ってきた。

全国交流会の結成は、山谷での三者共闘による山村組闘争、釜ヶ崎での釜日労・争議団による80年の春季賃金闘争、これら山谷—釜ヶ崎の闘争総括を、全国4大寄せ場（釜日労・争議団（大阪）—釜日労（名古屋）—寿日労（横浜）—山日労、6・9闘争の会（東京））の共同作業で進め、その戦果として、総括視点を全国寄せ場で共有化し、ここを直接の出発点とした。とりわけ、山村組闘争の9・29の闘争局面に孕まれていた争議を、活動家の単なる憤激に拝跪して解体させた否定面の主体的総括を、全国寄せ場の新たな階級的団結を創り出すうえで、その共有すべき総括視点を据えることを通じて、全国交流会は出発したのである。

この山村組総括の全国的共同作業の中で、全国交流会の運営の三点の原則が確立された。

すなわち、

一、釜共闘—現闘委解体以降の全国寄せ場の分裂と分散の冬の時代に、共に主体的に責任を負い、この時代に共同して

終止符を打ち、路線的団結を基礎とする全国寄せ場の組織統合を闘い取ること。

二、この全国統合のために、全国寄せ場の70年代10年の総括を共同で押し進め、その総括視点を共有化すること。

三、運動上の意見の相違は同志的批判に基づき運動の内部矛盾として、同志的に解決・止揚すること。

—この全国交流会の3点の運営原則は、同時に、参加基準ともなった。

山統労は、パンフNo.4で、

「寄せ場交流会は、山統労排除の陰謀のもとに発足した」

「山統労の選別排除は『統一準備会』と同様の手口だ」との煽動を行なっている。

全国交流会は、「『統一準備会』」なる全国統合に対する敵対活動としてのこの種の煽動に、ひとつひとつ受け答える時間を持ち合せていない。我々は時間を少しでも大切にしたいと考える。

全国交流会は、山統労の全国統合に対する次のような分裂主義の態度を指摘しておく。

山統労は、全国交流会に対し「陰謀によって交流会から排除された」旨の煽動を行なっている。

全国交流会は、何よりも山村組総括の全国的共有化を基礎に出発した。ところが、山統労は、我々の出発点たる山村組

総括に対して「山村組闘争完全勝利」などと無総括を決めこみ、自らの手で、交流会参加の道を閉ざしていた。山統労は、

山村組闘争の主体的総括を全く放棄し、全国統合に向けた共通の基盤から転落しながら、その責を、あるうにかか全国交流会に転嫁し、「選別排除された」「陰謀があった」など、転倒した煽動を行なう始末である。

全国統合の隊列からの山統労の転落ぶりは、今や、全国交流会を「統一準備会」と同一視する形で大衆煽動を行なう段階にまで至った。

このことは、寄せ場の全国統合に対し、山統労が明確に敵対勢力の一員に転化していることを自己暴露しているものだ。全国交流会は、全国寄せ場の統合に対し、この様な勢力として登場する山統労の分裂主義こそ、冬の時代に拝跪し、全国寄せ場の80年代の新たな闘いの到来に恐れをなす、冬の時代特有の狭いセクト的なサークル根性に根ざしていることを見るものである。

冬の時代に終止符を打ち、激動の80年代闘争の階級的布陣を全国陣型として打ち固めることを自らの任務とする全国交流会は、全国統合の物質的、階級的な底力で、冬の時代を断固として清算し、山統労に示される全国統合への敵対を、階級的に一掃するであろう。

山統労は、冬の時代の産物に他ならない、

セクト的分裂主義をキツパリと清算し、

全国統合の階級戦列に、共に立て!!

6・25 船本洲治同志決起7年!

山谷・釜ヶ崎の仲間たち!

黙って野たれ死ぬな!

未来は無産大衆のものであり

最後の勝利は

闘う労働者のものである

確信をもって前進せよ!

一九七五年六月二十五日

「檄」より

1982年6月6日 日曜日

労働運動を 集結する 二つの 管理労働者

八ヶ岳の歌北は労働組合の結成を示したが、労働の行
動的な組織に於ける仲間たちの苦闘は各地で展開されてい
大阪では五月二十日、香ヶ崎で全国日雇労働組合協議会結
成宣言集会が、二十九日には障害者職もを要求者組合の準
備会結成集会が相次いで行われた。反差別と解放を求める生
業と地域をこえた労働運動が、管理労働運動をもちがす
下からの力となるべきに期待を寄せている。



会場には「日雇労働者団結せよ」の旗がたてられた

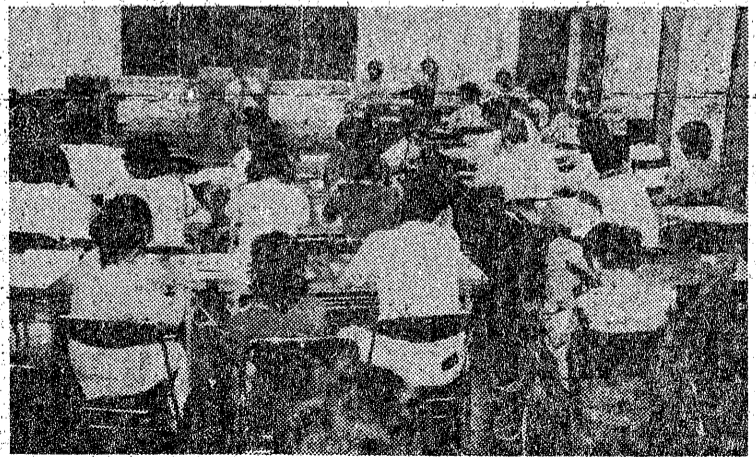
ワシらは全国どこでも働き、どこでも闘う よせ場所労働者団結せよ 全国 三角公園に結集

全国に散在する日雇労働者、シロをつないだタシ集が、荒々し
下層労働者層、わが旗の下に研
い男たちの組合を思わせるに十
せよ、全国の四大寄せ場「山
谷」「海町」「笹島」「金ヶ崎」
谷」「海町」「笹島」「金ヶ崎」
の労働者が金ヶ崎・三角公園に結
集して、五月二十八日、鈴木組
争勝利・全国日雇労働組合協議会
結成宣言集会を開いた。
三角公園の正面演壇には「山谷
争闘」「海町日雇労働者組合」
争闘団「海町日雇労働者組合」
争闘団「金ヶ崎日雇労働者組合」の旗がま
並んだ五人の金ヶ崎闘士（写真）
るべきのようにはびこっている。ム
への緊迫が告げられると、それま
の寄せ場が一丸となっていくかと

勝たれんことをまず確認しよ
う。七年の釜の鈴木組闘争が飛
び出した山谷での労働者の闘いに
シロは全国どこでも働き、全国ど
こでも闘う、という言葉をこの日
仲間は金ヶ崎からかけつけられ
た。連帯を休め示した。これこそ
われらの連帯だ。タム工事で死んだ
もの、飯場の火事、焼け死んだも
の、多くの仲間、しかほねをのり
こえてくれば現場一番苦しい日
である。ここから闘っていく。日
本の下の労働者に差別と対立をも
ちこむ権力に対して、被差別部落
の仲間、在日朝鮮人、沖縄の仲間
たちと連帯と結ぶ闘いをやろうと
と。協議会の役割は大きい。

労働現場での差別さ れた体験を熱く討論

【大阪】「一人分をなせ」とい
うかけ声のもとで行われている行
革攻撃は、種別別の格差による歴
史の中で最も差別されてきた人び
とへ格差をいっているものにはかな
ない。
大阪では、本紙五月二十三日号
で既報の職もを要求者組合準備
会の結成集会が市立労働会館で五
月十九日に行われた。
集会が形式だけの進行をきいて



体験交流を中心に進められた職よこせ要求者組合準備会

全障連、青い芝の会など各団体の
アピルと基調、悪意書の提起は
短時間ですませ、極と心を結集
した障害者らの討論にあてられ
た。
「苦しみ前にては仲間たち
は、自らの生いたる、劣悪な労働
条件で働かされた体験を吐きた
すように怒りを込めて語った。
「三年前に働いていたところば
かしら」

全国日雇労働組合
結成宣言集会

能力主義による差別の歴史かえよう

障害者職よ
求者組合準

また、余
た一人の
口の
ついでに
訓練授
は「社会
普通で働
もので、障
気をつか
どてかに
を表現し
校ではじ
る障害者
さって働
が試され
そのほか
所、東大
てかちと
言はと集
言言があ
最後に全
働者が自
さ存在す
者に近づ
うてと大
別された
結んだ。
今回の全
者職よこ
結成がど
ための闘
をあた
闘争に新
固的なが

528 結成集会宣言

全国日雇労働組合協議会は、今、敵権力の集中的な攻撃の中で、全国の闘う仲間達の熱い共感と注目を集めて結成される。

我々は、この結成を、すべての寄せ場労働者や闘う階級兄弟たちと、そして何よりも闘いの中で殺されていった同志や仲間たちに誇りをもって宣言する！

寄せ場は独占資本により、都市における労働力市場として形成され、過剰労働軍を集中した。

「高度経済成長」の時代に入り、寄せ場は労働力市場として肥大化し、虐げられ抑圧されてきた寄せ場労働者は自らの闘いの武器を握った。それは暴動であり、下層労働者の最初の反乱だった。

支配階級は暴動の階級的意義に恐怖し、治安弾圧体制を打ち固め、寄せ場労働者の反攻への包囲網を形成し、一方でいくつものアメを用意して暴動そのものを根絶やしにしようとした。

65年日「韓」条約をさかんに帝国主義労働運動が抬頭した。階級闘争を放棄し、労働組合を改良運動と議会政治の圧力機関に墮落させたブルジョワジーの第二勢力Ⅱ民同派は、労働運動を狭い企業や工場の範囲に押しこめ、「運動」を通じてプロレタリアートを市民に解体させ、こうして個的利害をめぐる取引きのために、下層労働者、農民、被圧迫階級の闘いを敵に売りわたしてきた。

こうした事態に対する寄せ場労働者の回答は、暴動であり、不服従宣言だった。

70年初頭、全港湾建設支部西成分会の左派は、よせ場労働者の闘いと結合できない社民潮流と訣別し、寄せ場を牛耳る手配師、人夫出しの暴力支配にカン然と立向った。

72・5・28暴力手配師の頭目・鈴木組に対して釜ヶ崎二万労働者の怒りを集中し、これが一週間の暴動に発展した。この渦中に「釜共闘」は結成され、朝のセンターと現場を切結んだ人現場闘争Vの戦術方針が打出された。仲間の怒りを意識的に労働過程に集中し、暴動と結んで寄せ場の奪権闘争は勝利した。

この闘いに連動し、山谷では現闘委が組織され、代行主義・労働組合セクト主義の潮流にとって替って寄せ場の支配権を暴力手配師から労働者の手に奪い取った。こうして、敵の暴力支配を労働者の暴力で覆えすことによって、釜共闘・現闘委は仲間の大きな信頼をかちとった。

しかし、この戦闘的な潮流は、日帝国家権力のよせ場封じ込めに対決できず、石油恐慌以降の急激なアブレ地獄の中で労働者の自己解放をめざす、基本組織を建設できないまま、反革命包囲網の中で敗北・解体を余儀なくされた。

70年代後半、下層だけでなく上層もこれまでどうりにやっつけていけなくなる帝国主義の危機の時代に野垂れ死攻撃にさらされる自らの運命に対して、釜ヶ崎、山谷のみならず、寿町、

笹島にも労働組合が結成された。そして、三里塚闘争や狭山差別裁判弾闘争に示される全人民的政治闘争の渦中にわけ入り寄せ場労働運動の統合をめざして全国日雇共闘が結成された。この時期は、A釜共闘V人現闘委V潮流の分裂と分散の時代であり、全国日雇共闘は運動の後退局面にはびこるブルジョア改良主義に一線を画し切れず、狭いサークル運動にとどまっていた。

しかし、この冬の時代に終りを告げんとする予兆は、一方で孤立してもなお、怒りを保持しつづけた船本洲治、鈴木国男、磯江洋一らの単身決起、他方で釜ヶ崎の暴力飯場に対する実力闘争の中に育くまれていた。帝国主義の危機が深みを増し、寄せ場の労働運動も徐々に活性化した。釜ヶ崎の80年春季賃金闘争、山谷の80年夏の最上鉄筋・前田建設闘争、同年初の山村組闘争を経て、寄せ場労働者の全国統合を求める気運は急速に高まって来た。

こうして、全国寄せ場交流会がはじまり、十年間の寄せ場労働運動の総括を共有し、帝国主義に対決する階級的労働運動の、下層からの推進翼として全国統一闘争をくりひろげてきた。各寄せ場でも、これに歩を合せて闘う勢力の統合が進み、山谷にあっては、その運動上の成果は82・4・25暴動に発展した。

かくして全国日雇労働組合協議会が結成される。全国日雇労働組合協議会は、寄せ場を拠点に全国の現場を自らの戦場として闘い抜くための全国単一の基本組織である。戦前、飯場において職安において日本帝国主義の暴虐に抗して在日朝鮮人労働者を筆頭とする激烈な闘いがあった。しかし、こうした偉大な闘いを生み出しつつも、日本労働者階級が排外主義に屈服し、侵略戦争に動員されていった歴史をふまえ、我々は国際主義を旗印として出発する。

今、日本帝国主義の危機が深まり、とりわけ寄せ場労働者は慢性的なアブレ地獄に叩き込まれ極度に窮乏が煮つまっている。建設独占をはじめとする独占資本は重層的な下請系列支配の再編強化をおしすすめ、搾取・収奪とその支配を強めている。この下請制度の基底部で、労働者供給制度（手配師、人夫出し、飯場等）をテコに独占資本は我々に犠牲を転化し、寄せ場を疲弊させ、新たな支配をほしひまにせんとしている。

帝国主義は暴力支配をむき出しにしている。一方で福祉を切りすて野垂れ死を強制し、他方で治安弾圧体制の強化・保安処分支配を先取りして我々に襲いかかってくる。監獄然り、精神病院然りである。そして半タコ飯場も然りである。

だが、こうした奴らの攻撃に対して、仲間の怒りは明確な方向をもちはじめている。まさに4・25の山谷暴動はその証である。九年振りの暴動が示したものは、寄せ場の、下層労働者の着実な地殻変動なのである。

全国日雇労働組合協議会は、よせ場を闘いの出撃拠点とし、寄せ場―飯場―現場を貫く運動の布陣を形成する。敵のアブレ攻撃、争議圧殺、封じ込め、寄せ場解体攻撃に対して全国方針を打ちたて、攻撃目標を定め、工作隊を組織し、仲間の怒りを敵に対して解き放つ戦術を確定する。ついで各寄せ場における創意工夫をこらした運動体を建設し、仲間の沸き出る闘争心を全国規模の具体的闘いにあみあげていく。

すでに平和な時代は終わった。いや、帝国主義の時代に平和などありえないのだ。日本帝国主義は我々を、朝鮮をはじめとする侵略戦争の尖兵へと、産業報国会の一兵卒に動員せんと、政治支配を整え排外主義の思想をまきちらしている。

全国日雇労働組合協議会は、自らの置かれた位置が、帝国主義との真正面きった対決抜きに一粒の改良すら闘いとれな

いことを認識し、そこから出発している。我々の全国統合は、産業報国会へと労働組合を変質させようとしている独占資本、労働代官、貴族共の侵略戦争の野望に鉄槌を下すものでなければならぬ。それ故、今、あらゆる方面で帝国主義と対決する布陣を打固めている階級兄弟と団結を求めていく。

全国日雇労働組合協議会は、広汎な闘う労働者・農民との団結、在日朝鮮人をはじめとする被抑圧民族との団結、併合・抑圧・同化に苦しむアイヌ、琉球人との団結、差別と闘う被差別部落民、「精神病」者、「障害」者との団結を求め、共に帝国主義と対決する階級的布陣をうち固めていく。

今や我々は野垂れ死の淵に立たされ、座して死を待つのか、生きて支配者を打倒するのかの選択を迫られている。

万国の労働者、被抑圧民族団結せよ！

全国に散在する仲間たち！ 寄せ場の仲間たち！ 敵との闘いの中で熱いちぎりを結ぼう！

全国の日雇労働者団結せよ！ 全国日雇労働組合協議会に結

集せよ！

【注】* 暴力手配師追放釜ヶ崎共闘会議

** 暴力手配師・悪質業者追放現場闘争委員会

一九八二年五月二八日

全国日雇労働組合協議会

釜ヶ崎日雇労働組合・争議団

大阪市西成区萩之茶屋二丁目 釜ヶ崎解放会館2F

☎ 〇六一六三二一四二七三

笹島日雇労働組合

名古屋市中村区牧野町9-9

☎ 〇五二一四五一一四一七六

寿日雇労働者組合

横浜市中区寿町3-9-6

☎ 〇四五一六六二一五六三八

山谷争議団

東京都台東区日本堤2-28-7 池尾荘1号室

☎ 〇三三八七二一七〇八一

主催／日雇全協創立大会準備会

釜日労・争議団	06 -632-4273
笹島日雇労働組合	052-451-4176
寿日雇労働者組合	045-662-5638
山谷争議団	03 -872-7081